

女性のライフサイクルと 産婦人科医療

これからは、Total ladies' health care



現代の産婦人科医療について①

- 産婦人科学は多くの不幸な母体死亡、周産期死亡と取り組み、さらには婦人科腫瘍と格闘しながら発展してきた。
- 近年に至っては、生殖医療におけるART*、内視鏡手術の進歩などの新たな先端技術導入によって、次々と新しい展望が開かれつつある。

* 体外受精-胚移植などの生殖医療技術を指す。



産婦人科 = 産科/婦人科/生殖医療

現代の産婦人科医療について②

- その一方、取り残されてきたのが女性の健康を総括的、かつ予防的に扱う診療領域であった。
- ここ数年来、更年期外来をはじめとした専門診療外来が多く医療機関で設置されてきている
- しかし、まだ更年期外来、骨粗鬆症外来などと細分、特化した専門領域を看板に掲げている施設が多いのが現状である。

これからの産婦人科医療①

- 女性の内分泌環境を中心とした視点で、これらに起因した健康問題を専門とする外来、即ち**女性健康外来**を設け、小児・思春期から中高年女性に到る女性の一生の健康問題を継続して予防も含めて包括的に診療対象とする視点は、これからの診療には欠かせないものとなっている。



産婦人科 = 産科/婦人科/生殖医療
+ 女性健康医学

⇐他科との連携

Total ladies' health care

参考 女性健康外来とは

- 女性の一生の健康を担う診療体系。
- 小児、思春期から中高年にいたるまで幅広く継続して女性の特性を考えた健康管理を目指し、医原性のものも含めた内分泌生理学的機能障害を始め、生活習慣病の予防・治療、更年期障害、心にケアに及ぶ領域までを診療内容とする。

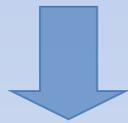
これからの産婦人科医療②

思春期に起こった健康上の問題 → 中高年の健康・QOL
に影響を及ぼす



現在の医療体制

思春期外来から更年期外来への橋渡しの間には大きな間隙がある
産婦人科外来では、妊産婦の間で内分泌障害のある女性は形見のせまい思いをする



将来の医療体制

女性健康外来の設立

婦人科、小児科、内科、整形外科、精神科、各種のカウンセラーなどの連携・協力による学際的診療体系基盤の整備・確立を目指す

これからの産婦人科医療③

従来の産婦人科診療体系

月経・内分泌異常・妊娠 更年期障害 老化

小児科

産科・婦人科

婦人科

これからの女性健康外来

小児科

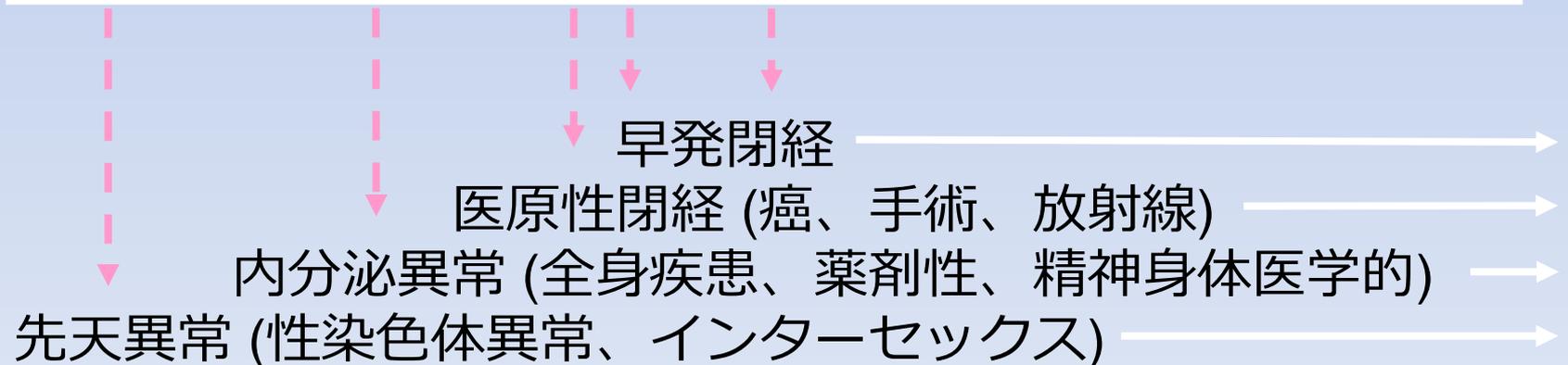
思春期

若年

生殖年齢期

更年期

中高年



参考「日本更年期医学会」も 「日本女性医学学会」に改称

2011年4月

- 以下学会長挨拶から抜粋
 - 一例をあげますと、妊娠高血圧症候群や糖尿病合併妊婦の管理を巡っては専門領域の発展に伴い日本のどの地域でも同じような方針で行われるようになり、今や我が国の妊産婦死亡率は世界最高レベルにまで改善しています。しかしながら、これらの症例の分娩後の管理をどうしているかと言えば、ほとんど放置されているのが現状です。妊娠高血圧症候群や妊娠糖尿病の既往を持つ女性では将来において極めて高率に本態性高血圧や糖尿病に進展していることが理解されているにもかかわらずです。予防医学の観点から、我々産婦人科医は女性のライフステージを通じてこれらの妊婦を診て行く時代に来ていることを強く意識すべき時代に来ていると思います。そうすることで、我々は、病気ではなく病人を診ることになり・・・